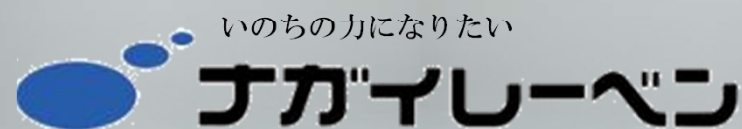




2017年8月期 第2四半期 決算説明会

2017年4月5日



(東証一部 コード:7447)

<この資料に関するお問合せ窓口 管理本部:徳江(03-5289-8200)>

I 当社の特徴

当社の特徴



1

創業100年 医療白衣メーカー專業 優位なポジションを確立

- ・国内シェア**60%**超のリーディングカンパニー
- ・年間**600**万着以上を供給
- ・企画から製造、販売までを一貫して行う
- ・数千種類にも及ぶ豊富なアイテム数、オーダーメイド対応など、競争力のある商品

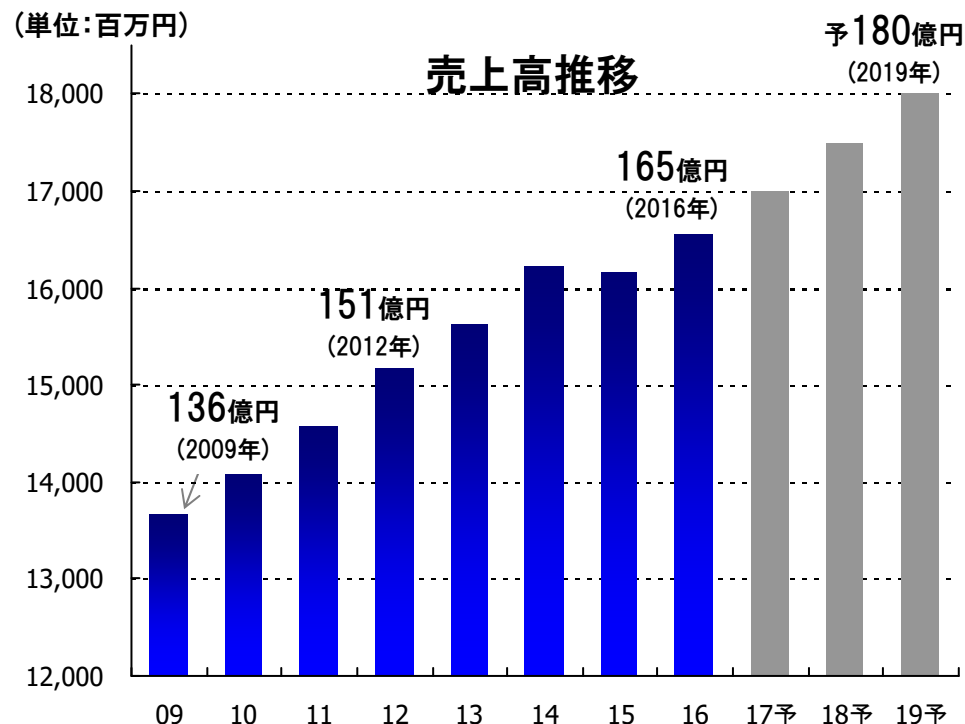
2

安定伸長する市場環境

- ・医療・介護従事者数は緩やかに増加

医師・歯科医師・ 薬剤師数*1 (2014)	看護職員数*2 (2014)	介護職員数*3 (2013)
70万人	160万人	177万人
12年比 +17,000人	13年比 +31,000人	12年比 +79,000人

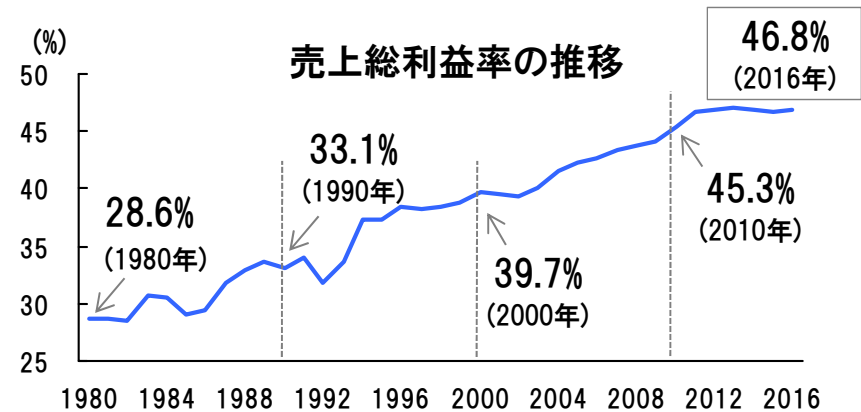
- *1 厚労省「平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」
- *2 日本看護協会「看護統計資料」
- *3 厚労省「介護人材の確保について」資料より



3

強固な収益体質と財務基盤

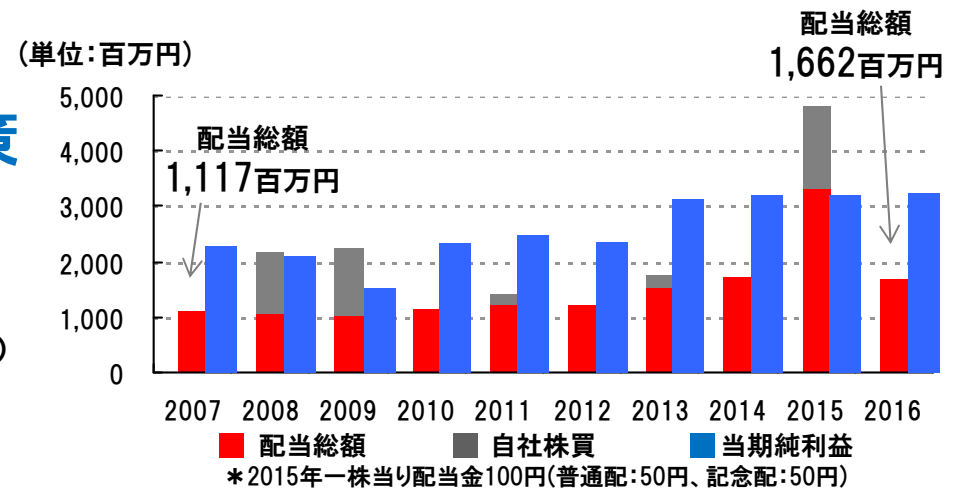
- ・徹底的な効率化の追求による原価低減
- ・売上総利益率 **46.8%** (2016年8月期)
- ・自己資本比率 **88.8%**(2016年8月期)
- ・ROE **9.4%**(2016年8月期)



4

株式価値の向上 株主を重視した株主還元策

- ・BPS **1,037.8円** (2016年8月期)
- ・EPS **98.1円** (2016年8月期)
- ・安定配当、配当性向**50%**以上(単体)
- ・自己株式の取得



5

社会的責任:豊かな社会の実現とその持続に貢献

「ナガイズム」の行動指針のもと、「人」「企業利益」「社会貢献」が、バランスよく熟成してこそ、社会に求められる企業集団になると考えております。

CSR/ESGの取り組み

女性活躍

女性主役産業をサポート



当社の商品の多くは病院・介護の現場で働く女性向けであり、また当社の生産現場では多くの女性スタッフが縫製作業に関わっています。当社の事業活動が、多様なライフイベントをもつ女性が活躍できる場を創出し、働く女性への支援につながっています。

地域貢献

生産拠点を通じた地域貢献



1969年に秋田県に製造工場を設立し、1989年には海外生産を開始し、中国、インドネシア、ベトナムに生産拠点を持っています。現地雇用の創出活動、能力開発など、国内外の地域社会の発展に貢献しています。

社会貢献

その他活動

・障害者雇用支援: 積極的に障害者の雇用・促進に貢献した事業所として、優良事業所の一社に選ばれ、厚生労働大臣から表彰されました。(2016年9月)



・災害支援: SARSやインドネシアの大地震、阪神淡路大震災、東日本大地震、熊本地震などの災害発生時に、看護協会や赤十字を通じた寄付や白衣の提供、車椅子の寄贈などを実施。

・ナースのための詩集を定期発行し、病院や看護師に無料贈呈。

地域貢献

メディカルキッズプロジェクト ミッフィー病院訪問

病院を地域社会との交流を深め、子どもたちが安心して通院・入院できるようにとの思いから始めたもので、医者や看護婦に模した、子ども用白衣の病院貸出しや、ミッフィー着ぐるみの病院訪問を実施しています。



お客様

ナースのための憩いの場 「ITONA」ギャラリーの開設

2015年の創業100周年を記念し、ナースへの「ありがとう」の気持ちを形にするため、日本で初めてのナースのための心のコミュニケーションスペース「ITONA いとな」ギャラリーを開設しました。



環境

環境への取組

・2005年に「ISO14001の認証」を取得。原材料の裁断クズを再利用したルーフ材加工などの取り組みを実施。

・病院の手術現場向けにリユース商品「コンペルパック」を開発・販売。従来のディスプレイからリユースに転換でき、病院内での医療廃棄物削減を可能にしました。





- I 当社の特徴
- II 2017年8月期 第2四半期の業績レビュー
- III 事業環境
- IV 2017年8月期の業績見通し
- V 中期経営計画
- VI 株主還元の考え方

当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。



1

売上高・利益

・過去最高の売上高・営業利益を達成

売上高 71億円 営業利益 19億円

2

事業環境の変化

-市場環境:診療報酬のマイナス改定の影響は軽微

-生産環境:(国内)加工賃の上昇

(海外)円安ドル高による仕入原価上昇

3

特殊事象など

-営業外収支:為替損益

2015年第2四半期 220百万円

2016年第2四半期 ▲33百万円

2017年第2四半期 46百万円

Ⅱ 2017年8期 第2四半期の業績レビュー

2017年8月期第2四半期 決算概要



(百万円、%)	上期	前年同期比	計画比	構成比	構成比増減
売上高	7,149	+3.0	+0.1	100.0	—
売上総利益	3,405	+7.3	+1.7	47.6	+1.8
販売費及び一般管理費	1,473	+0.6	▲2.1	20.6	▲0.6
営業利益	1,932	+13.0	+4.8	27.0	+2.4
経常利益	2,007	+17.9	+7.5	28.1	+3.6
当期純利益	1,380	+22.8	+8.0	19.3	+3.1

【売上概要】

・主力のヘルスケアウェアの順調な増収に加え、患者ウェアが継続して好調に推移、計画をクリアーするとともに過去最高の売上を達成

【売上総利益】 売上総利益率: 16/8期上 45.8% → 17/8期上 47.6%
 (販売による要因: +244百万円 生産による要因: ▲13百万円)

→ -原材料/加工賃等の値上影響 (▲16百万円)

-原価為替レート: 16/8期上 99.7円/ドル → 17/8期上 102.5円/ドル (▲25百万円)

-海外生産率: 16/8期上 46.5% → 17/8期上 47.0% (+18百万円)

【販売費及び一般管理費】

・16/8期上 100周年記念費用 34百万円(▲34百万円) 17/8期上 外形標準課税 36百万円(+17百万円)

【営業外収支】

・為替損益 16/8期上 ▲33百万円 17/8期上 46百万円(+79百万円)

【設備投資等】

・設備投資額 60百万円 (IT設備18百万円、建物関連8百万円、物流設備8百万円、生産設備3百万円)

・減価償却費 156百万円

2017年8月期第2四半期 決算概要

<貸借対照表>



【主な資産】

(百万円、%)

科目	金額	増減額	前年同期比
現金及び預金	18,868	+3,468	+22.5
受取手形及び売掛金	4,897	+136	+2.9
有価証券	—	▲1,518	▲100.0
棚卸資産	5,112	+234	+4.8
流動資産	29,234	+2,246	+8.3
建物及び構築物	2,308	▲103	▲4.3
土地	4,447	—	—
投資その他の資産	1,319	▲77	▲5.6
固定資産	8,756	▲229	▲2.6
資産合計	37,991	+2,017	+5.6

【主な負債・純資産】

科目	金額	増減額	前年同期比
支払手形及び買掛金	1,567	▲19	▲1.2
未払法人税等	621	+78	+14.5
負債合計	3,710	+135	+3.8
利益剰余金	34,696	+1,856	+5.7
自己株式	▲4,902	▲0	▲0.0
純資産合計	34,281	+1,881	+5.8
負債・純資産合計	37,991	+2,017	+5.6

【主な増減:対前年同期】

◎現金及び預金 +3,468百万円
 営業収支 +3,640百万円
 有価証券(FFF)償還解約 +1,518百万円
 有形無形固定資産取得 ▲172百万円
 配当金支払い ▲1,656百万円

◎固定資産 ▲229百万円
 建物及び構築物(減価償却) ▲147百万円

◎純資産 +1,881百万円
 当期純利益 +3,518百万円
 配当金支払い ▲1,662百万円

アイテム別分類



ヘルスケアウェア



患者ウェア



シューズ



ドクターウェア



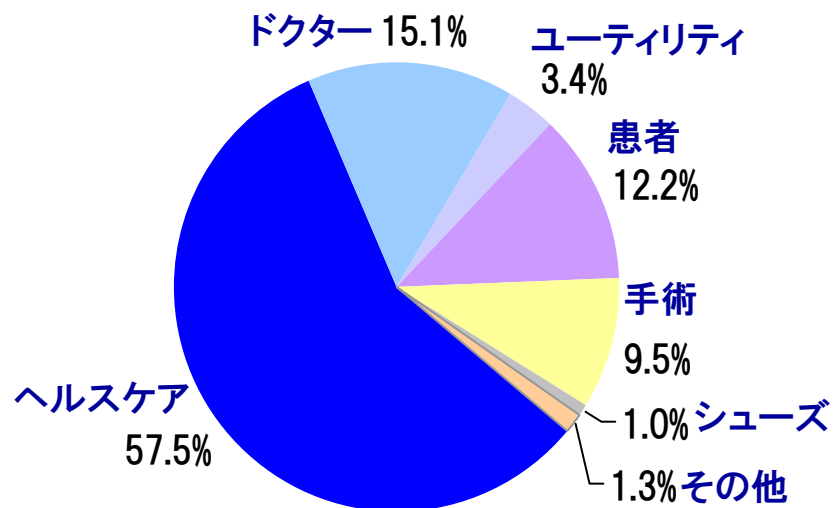
ユーティリティウェア



手術ウェア



アイテム別売上状況



前期比	16/8 上期	17/8 上期
全体	+1.4%	+3.0%
ヘルスケアウェア	+0.2%	+2.2%
ドクターウェア	+2.0%	+0.7%
ユーティリティウェア	▲5.4%	▲14.3%
患者ウェア	+13.2%	+20.9%
手術ウェア	+1.3%	+2.1%
シューズ	▲6.2%	+1.3%
その他	▲4.0%	▲10.1%

【ヘルスケアウェア】

・ここ数年の新商品群による市場活性化により、更新物件のモデルチェンジ及び新規物件の獲得が順調に進行

【ドクターウェア】

・従来型量販品の販売は厳しかったが、高付加価値ハイエンド商品群の健闘により前期売上高をクリア

【ユーティリティウェア】

・個人支給から共用品への移行傾向が継続し、大きな減収

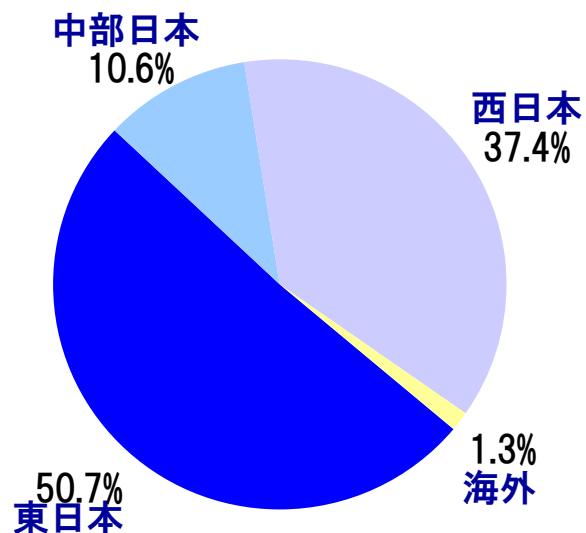
【患者ウェア】

・従来品の堅調な推移に加え、新商品が大きく販売増に寄与し、前期に引き続き高い伸び率を達成

【手術ウェア】

・コンペルパックの洗濯滅菌工場のフルキャパ状態が継続しており、2%の増収に留まる

地域別売上状況



前期比	16/8 上期	17/8 上期
全体	+1.4%	+3.0%
東日本	▲0.7%	+6.4%
中部日本	▲8.9%	+5.5%
西日本	+6.5%	▲0.8%
海外	+29.3%	▲21.4%

【東日本】

・更新物件の順調な受注に加え、新規物件も獲得し過去最高の売上を達成

【中部日本】

・市場性が大きくないため物件の多寡による影響が大きい

【西日本】

・前期大型物件の獲得により大きな増収となったが、今期も新規獲得に注力し、ほぼ前年並みの売上をキープ

【海外】

・売上規模が小さいため、前期大型病院への納入の影響が大きく、現段階では大幅減収

III 事業環境



市場は比較的安定

- 診療報酬の影響は軽微
- 医療・介護従事者数はゆるやかに増加

縫製工賃の上昇

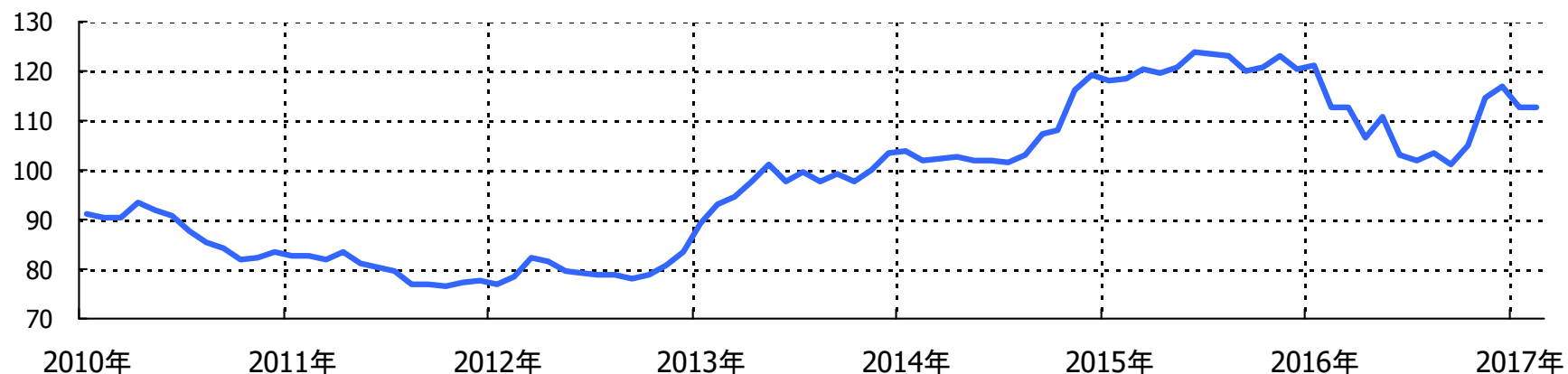
- 海外：中国はじめ、東南アジアの縫製工賃上昇
- 国内：人手不足による人件費の上昇

激動する為替相場

- NY市場での月間平均為替(8月)

2017年2月末日
112円/ドル

11年77円/ドル 12年77円/ドル 13年98円/ドル 14年102円/ドル 15年123円/ドル 16年103円/ドル



市場環境



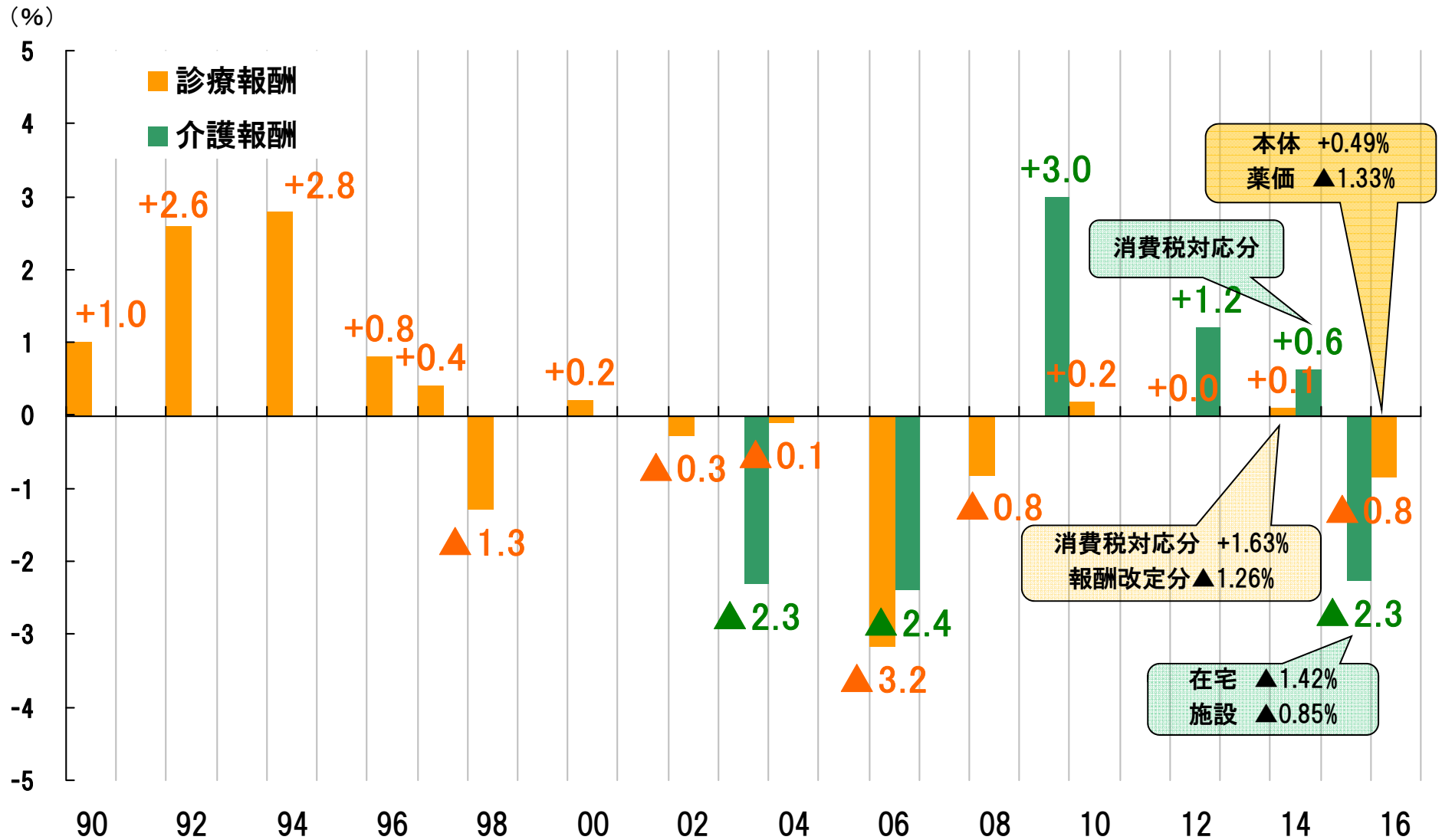
医療・介護制度の変遷と見通し

医療制度		介護制度		
'07	新健康フロンティア戦略発表 社会医療法人の創設		医療法人の有料老人ホーム経営解禁 12年介護療養型医療施設廃止発表	
'08	高齢者の医療の確保に関する法律 医療費適正化計画開始	全体▲0.82% 本体+0.38・薬価▲1.2	介護療養型老人保健施設の創設 介護従事者人材確保法成立	
'09	改正薬事法に基づく新薬事法全面施行 地域医療再生計画開始		第4期介護保険事業計画(09～11年度)	全体+3.0% 居宅+1.7・施設+1.3
'10	第7次看護職員需給見通し発表 国立高度専門医療センターの独法化	全体+0.19% 本体+1.55・薬価▲1.36		
'11	介護型療養病床の廃止期限6年延長 医療費適正化計画中間評価		社会医療法人の特養ホーム開設不許可に変更	
'12	社会保障制度改革推進法施行 健康保険法等一部改正法成立	全体+0.004% 本体+1.38・薬価▲1.38	改正介護保険法施行 第5期介護保険事業計画(12～14年度)	全体+1.2% 居宅+1.0・施設+0.2
'13	第2期医療費適正化計画 戦略市場創造プラン発表		介護利用者負担軽減措置の見直し	
'14	医療介護総合確保推進法案提出 薬事法の一部改正法施行	全体+0.10% 本体+0.73・薬価▲0.63	医療介護総合確保推進法案提出	+0.63% 消費税8%に伴う引上げ
'15	地域医療型連携推進法人制度提出 国保への財政支援の拡充		地域医療型連携推進法人制度提出 第6期介護保険事業計画(15～17年度)	全体▲2.27% 在宅▲1.42・施設▲0.85
'16	地域医療構想の策定 患者申出療養制度施行	全体▲0.84% 本体+0.49・薬価▲1.33	地域密着型通所介護に関する 介護保険法改正の施行	
'17	高額療養費制度の改正 地域医療連携推進法人の創設		介護報酬の臨時改定 介護保険法等の一部改正	

市場環境



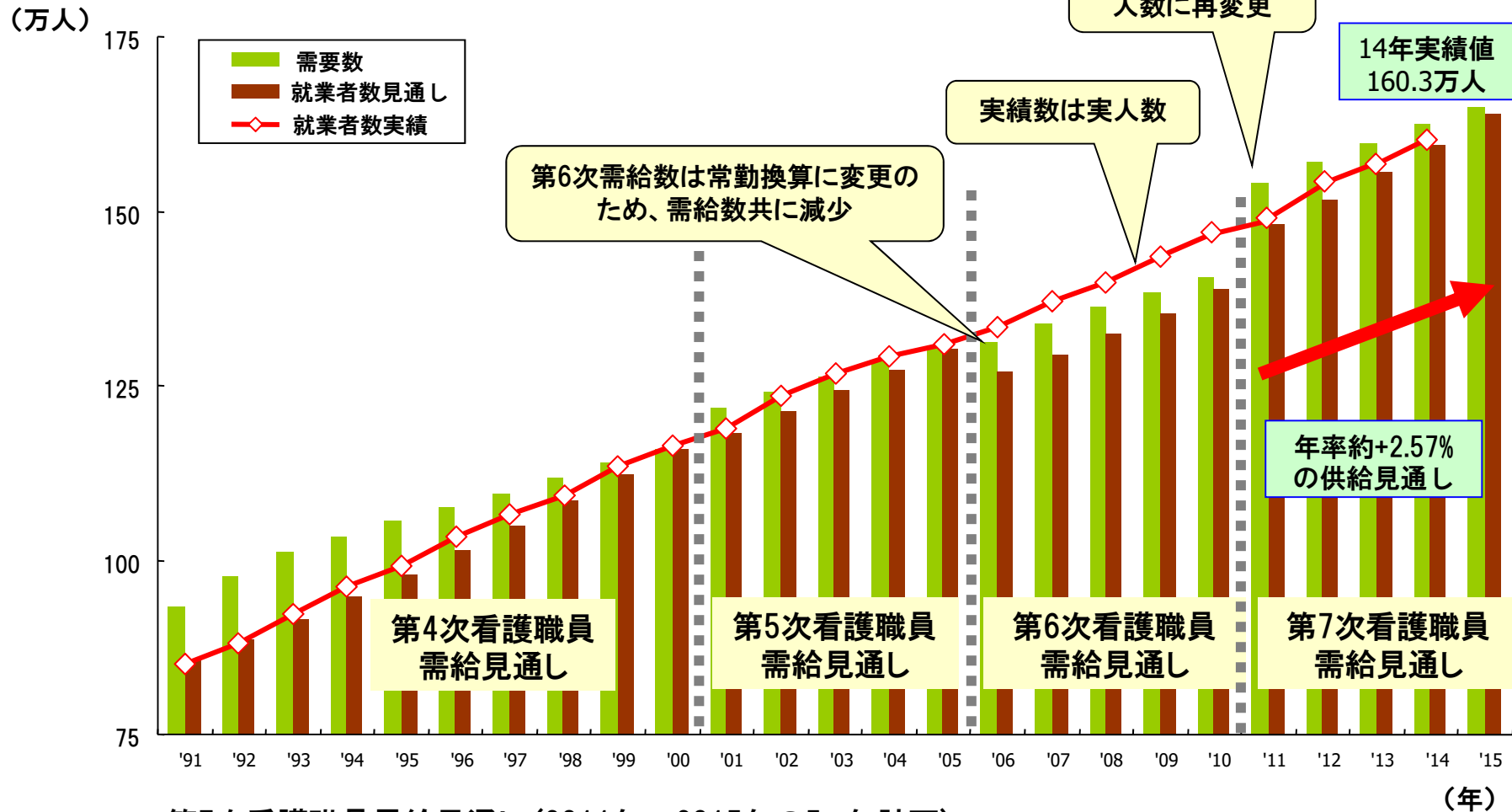
診療報酬・介護報酬の改定推移



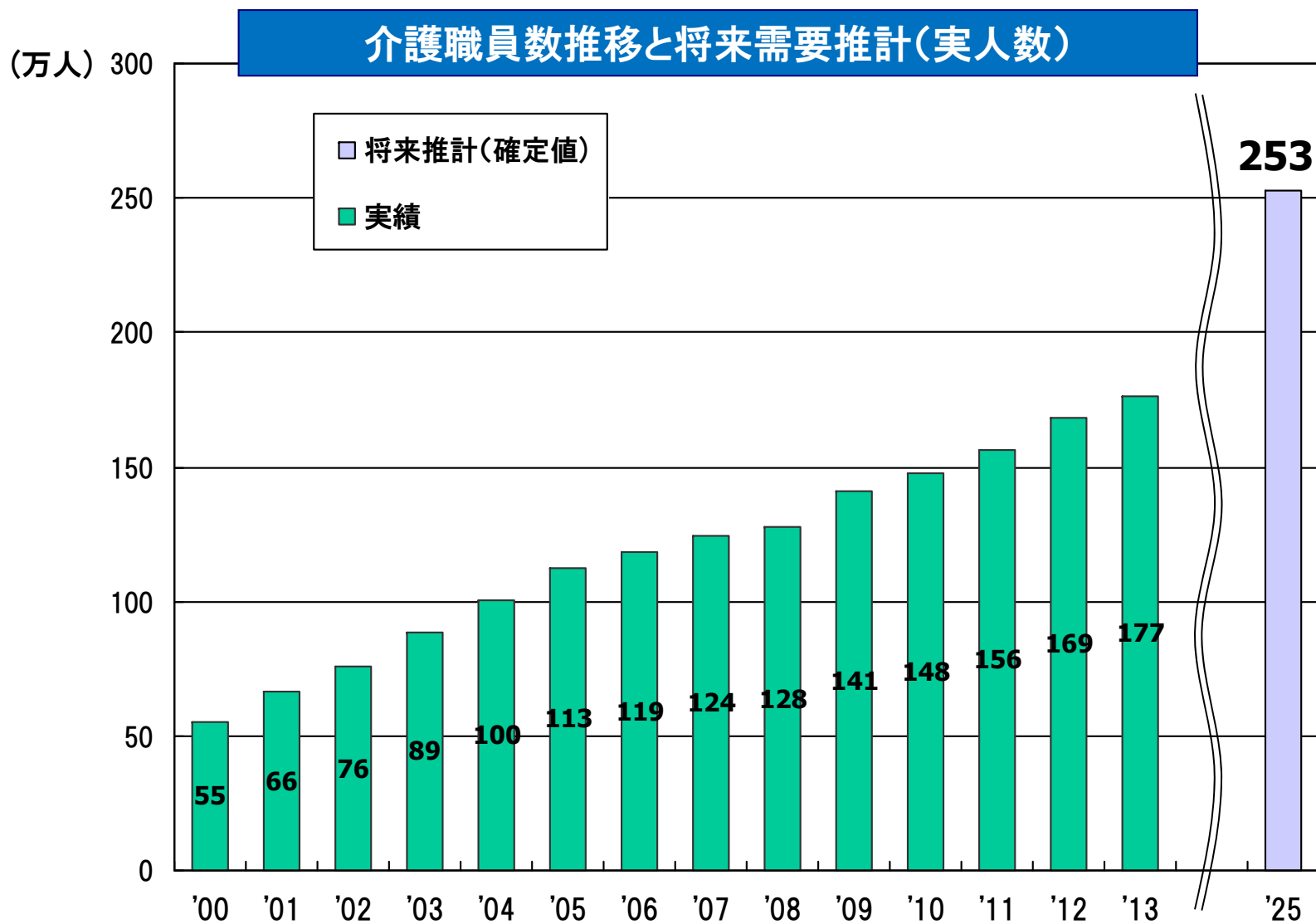
市場環境



看護職員需給見通し(出所:厚生労働省 2010年12月発表)



- ・第7次看護職員需給見通し (2011年～2015年の5ヵ年計画)
- ・医療、介護全分野での需給見通し
- ・次期看護職員需給見通しは策定中



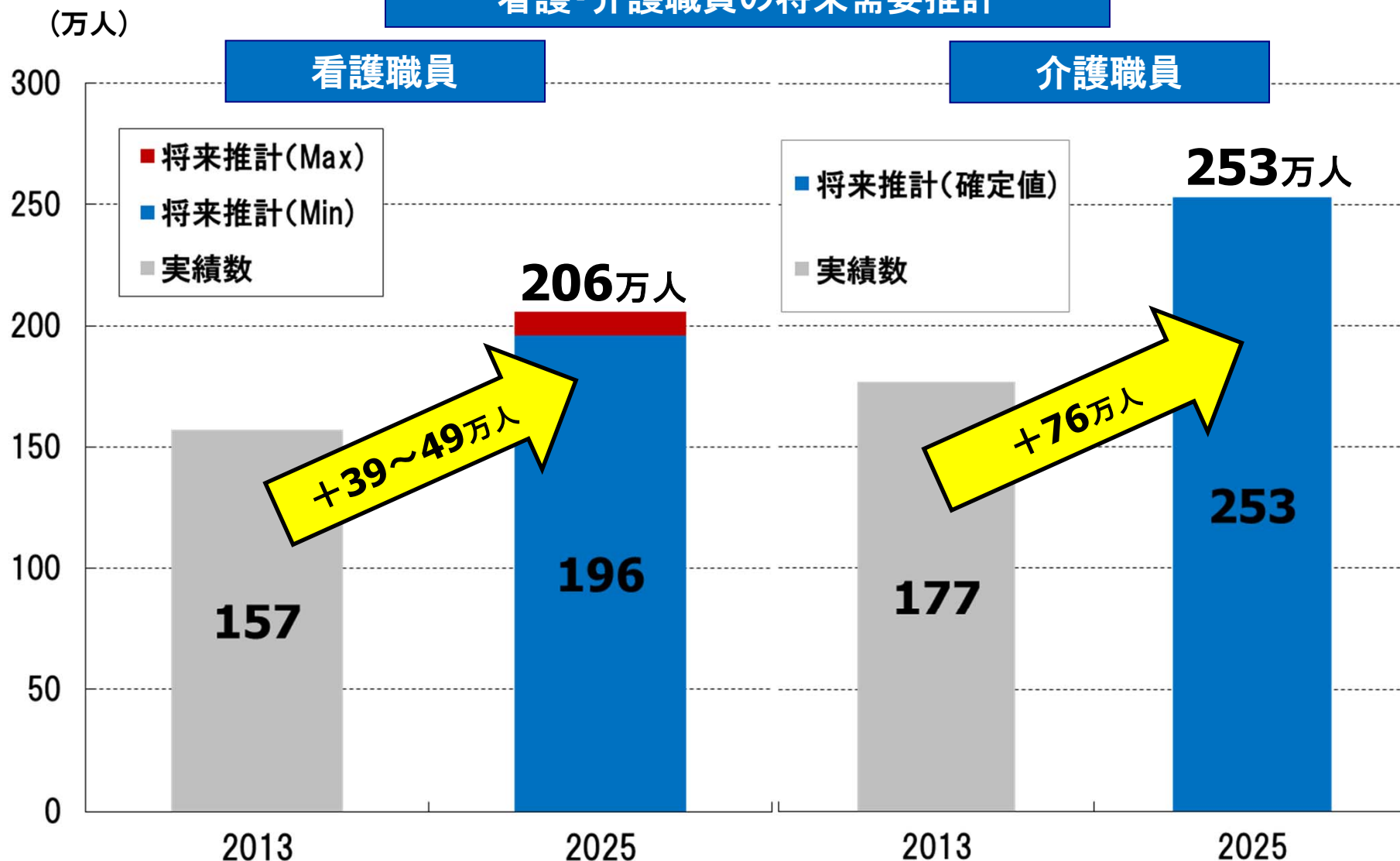
注1)'09以降は、調査方法の変更の影響を受けているため、厚労省にて補正したもの

出処: 実績値 厚労省「介護人材の確保について」

推計値 厚労省「2025年に向けた介護人材にかかる需給推計について」



看護・介護職員の将来需要推計



出処：実績値 日本看護協会「看護統計資料」

推計値 厚労省「第一回看護職員需給見通しに関する検討会」資料より

出処：実績値 厚労省「介護人材の確保について」

推計値 厚労省「2025年に向けた介護人材にかかる需給推計について」

IV 2017年8月期の業績見通し



売上拡大に向けた営業戦略

- ・看護・介護等コア市場の深耕
- ・患者・手術等周辺市場の拡大
- ・新市場の開拓

安定供給に向けた生産戦略

- ・国内生産体制の強化(賃上げ対応)
- ・素材メーカー・商社との取り組み強化
- ・QR・小ロット多品種生産への対応力強化

収益力安定に向けた戦略

- ・国内生産から海外生産へのシフト
- ・EPA,FTAの優遇税制の活用
- ・高付加価値戦略による事業収益性確保

2017年8月期 決算概要(見通し)



(百万円、%)	通期(予)	前年同期比	構成比増減
売上高	17,000	+2.8	-
売上総利益	7,945	+2.7	▲0.1
販売費及び一般管理費	2,839	+2.0	▲0.1
営業利益	5,106	+3.1	+0.1
経常利益	5,150	+4.3	+0.4
当期純利益	3,528	+8.2	+1.0

【計画概要】

・各市場への高機能・高感性の高付加価値新商品群の投入によるシェアアップを図り、連続増収を計画するとともに、売上総利益率の維持に努め、過去最高の売上高、営業利益を目指す

【売上総利益】 売上総利益率： 16/8期 46.8% → 17/8期 46.7%
 (販売による要因:+321百万円 生産による要因:▲111百万円)

→ -原材料/加工賃等の値上影響(▲70百万円)
 -原価為替レート： 16/8期 99.8円/ドル → 17/8期 104.5円/ドル (▲86百万円)
 -海外生産率： 16/8期 47.4% → 17/8期 47.9% (+40百万円)

【販売費及び一般管理費】

・16/8期 100周年記念費用 34百万円(▲34百万円) 17/8期 外形標準課税 87百万円(+37百万円)

【営業外収支】

・2016年：為替損益 ▲70百万円 *見通しには為替評価損益の影響は考慮していない

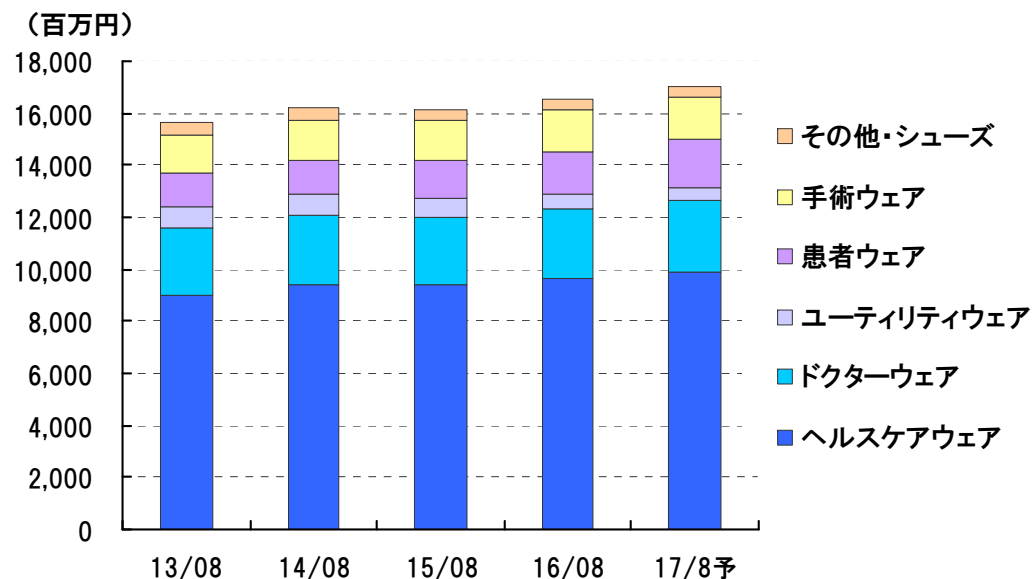
【設備投資等】

・設備投資額 155百万円 (建物関連44百万円、IT設備41百万円、生産設備33百万円、物流設備12百万円)
 ・減価償却費 318百万円

<アイテム別>見通し



アイテム別売上推移



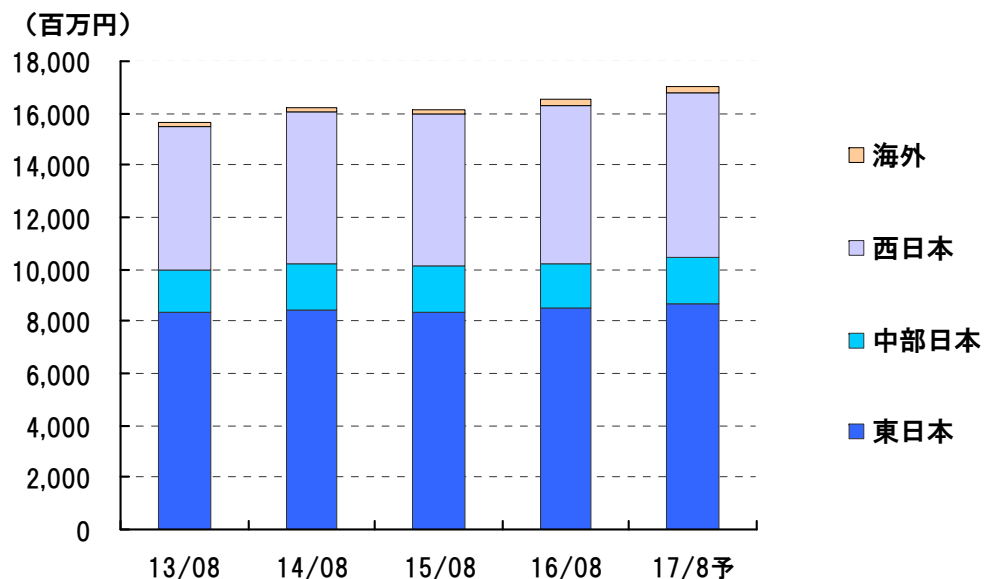
前期比	16/8(実)	17/8(予)
全体	+2.4%	+2.8%
ヘルスケアウェア	+2.6%	+2.5%
ドクターウェア	+2.0%	+1.7%
ユーティリティウェア	▲10.3%	▲15.2%
患者ウェア	+11.1%	+14.7%
手術ウェア	+0.9%	+3.5%
その他・シューズ	▲3.5%	▲6.5%

- ヘルスケアウェア、ドクターウェアは、高付加価値新商品群の投入により市場を活性化、堅調な増収を予定
- ユーティリティウェアは、市場の縮小が継続し、減収の見込み
- 患者ウェアは、市場の根強い需要増を背景に、新商品効果により引き続き大幅な増収を計画
- 手術ウェアは、コンペルパックの洗濯滅菌工場のキャパ解消と新規取引先の開拓により増収を見込む

<地域別>見通し



地域別売上推移



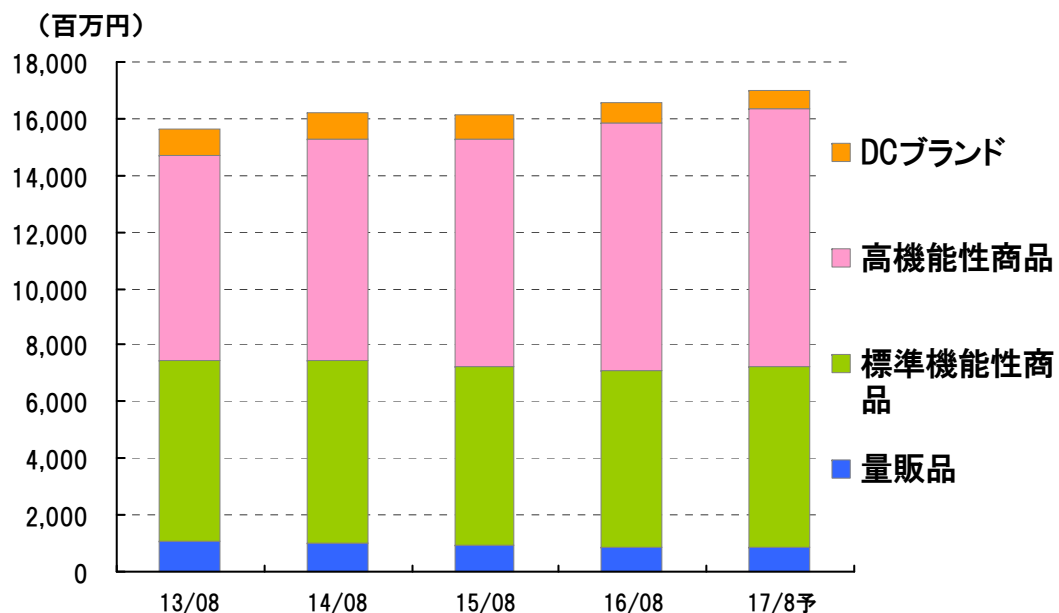
前期比	16/8(実)	17/8(予)
全体	+2.4%	+2.8%
東日本	+2.2%	+1.7%
中部日本	▲3.2%	+4.8%
西日本	+4.1%	+3.6%
海外	+14.1%	+9.5%

各地域ともに増収を計画、過去最高売上を目指す

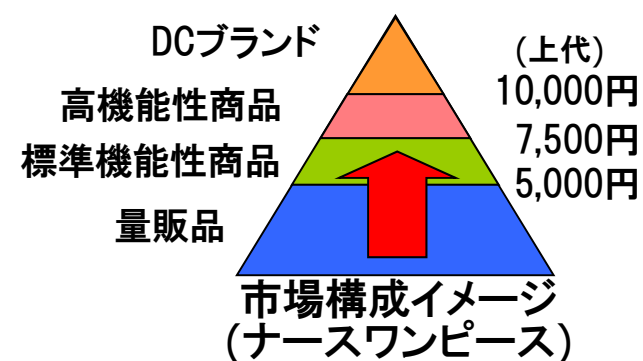
- ・東日本は、高付加価値新商品群の提案による更新物件の確実な受注で、堅調な推移を予想
- ・中部日本、西日本は、販促強化にてシェアアップに注力し、順調な増収を計画
- ・海外は、為替の状況にもよるものの、知名度の浸透を背景に拡販に注力



商品別売上推移



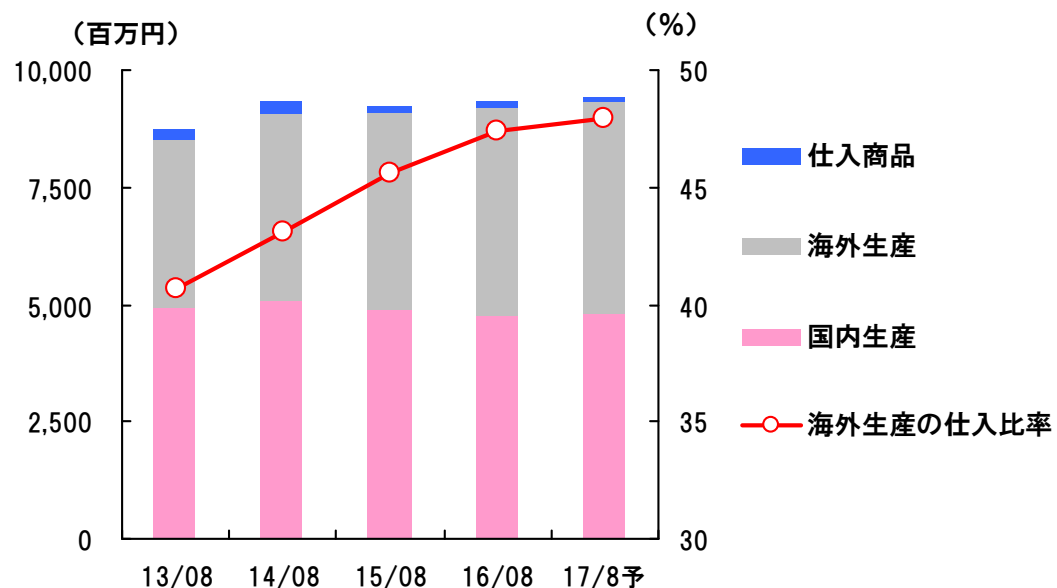
前期比	16/8(実)	17/8(予)
全体	+2.4%	+2.8%
DCブランド	▲14.8%	▲8.4%
高機能性商品	+7.8%	+4.5%
標準機能性商品	▲0.9%	+3.2%
量販品	▲6.6%	▲7.4%



- DCブランドは、「ミッフィー」「リバティ」で下支えするものの、他ブランドは厳しい状況
- 高機能新商品群は、市場の評価を得て好調に推移しており、継続して高付加価値戦略を推進
- 量販品は、減収傾向が継続するが、他社物件も含め機能商品群への移行を促進



生産状況(単独)



構成比	16/8(実)	17/8(予)
国内生産	51.2%	50.7%
海外生産	47.4%	47.9%
仕入商品	1.4%	1.4%

- ・ 国内生産は、賃上げにより優良人材確保を行い、QR・小ロット多品種の生産力アップ
- ・ インドネシア中部ジャワの新工場における生産性の向上と品質の安定化を促進

V 中期経営計画



売上の考え方

- ・患者・手術等周辺市場の拡大
- ・西日本エリアのシェアアップ
- ・高機能性商品の開発・販売

利益率の考え方

- ・高付加価値戦略の推進
- ・生産の海外シフト化
- ・為替リスクのミニマム化
為替予約による為替変動の平準化

売上の考え方



2013年8月期実績
(3期前)

2016年8月期実績
(前期)

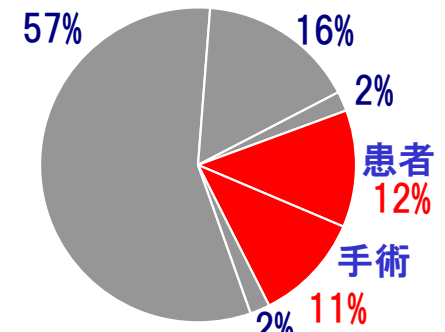
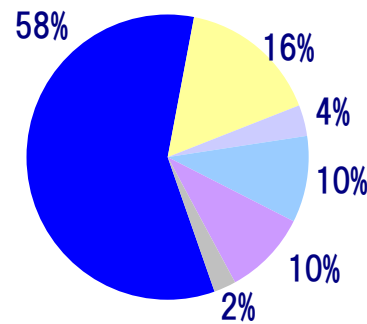
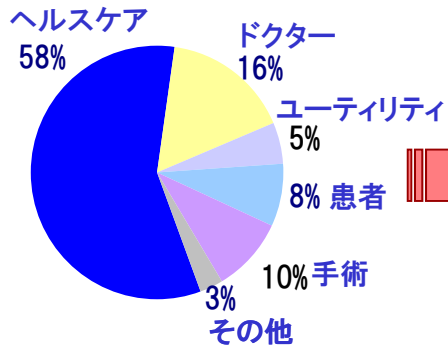
2019年8月期計画
(3期後)

売上高**156**億円

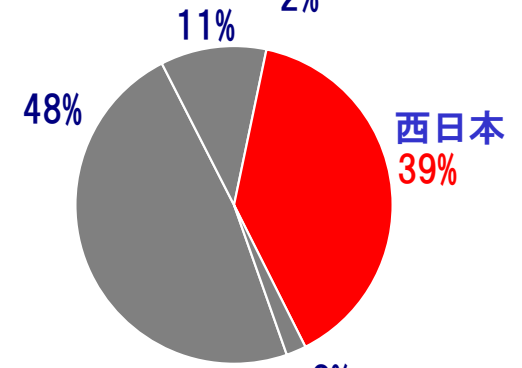
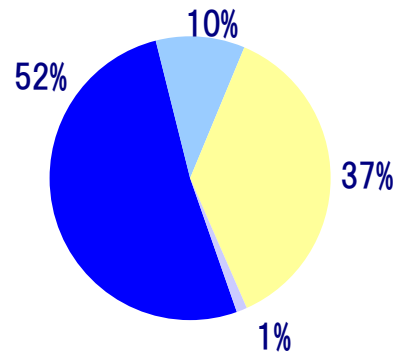
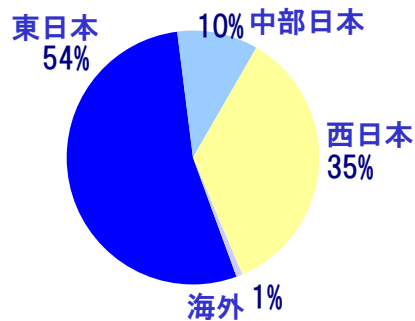
売上高**165**億円

売上高**180**億円

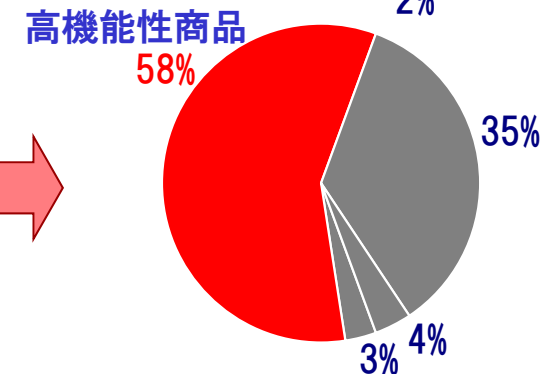
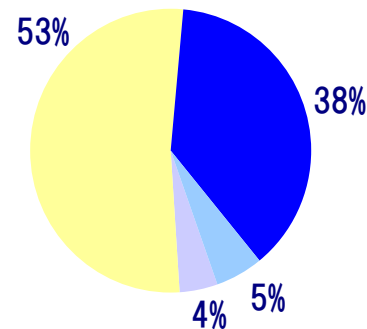
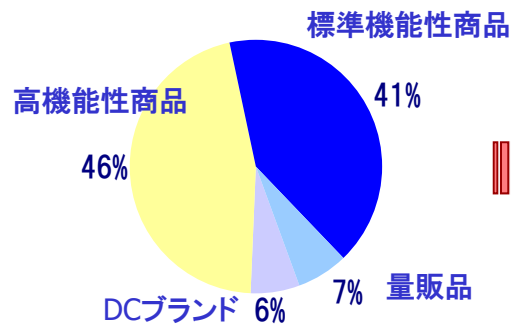
アイテム別



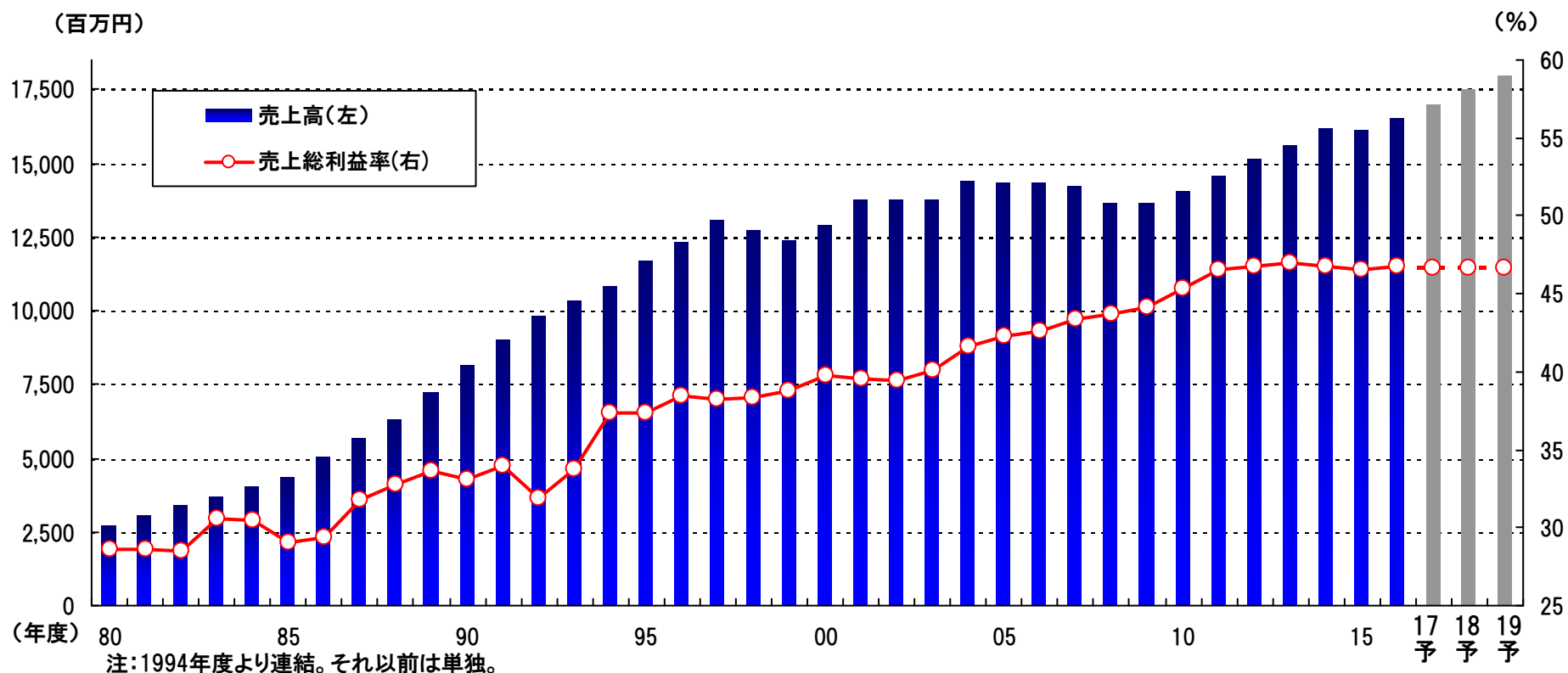
地域別



商品別



売上高・総利益率の推移



2019年8月期計画	
売上高	180 億円
営業利益	54 億円

VI 株主還元の方



株主重視の姿勢

- ～積極的なディスクロージャーによる透明性向上
- ～投資家との双方向コミュニケーション
- ～高配当による株主還元



配当方針

⇒安定配当継続、配当性向(単体)50%を基本方針にする

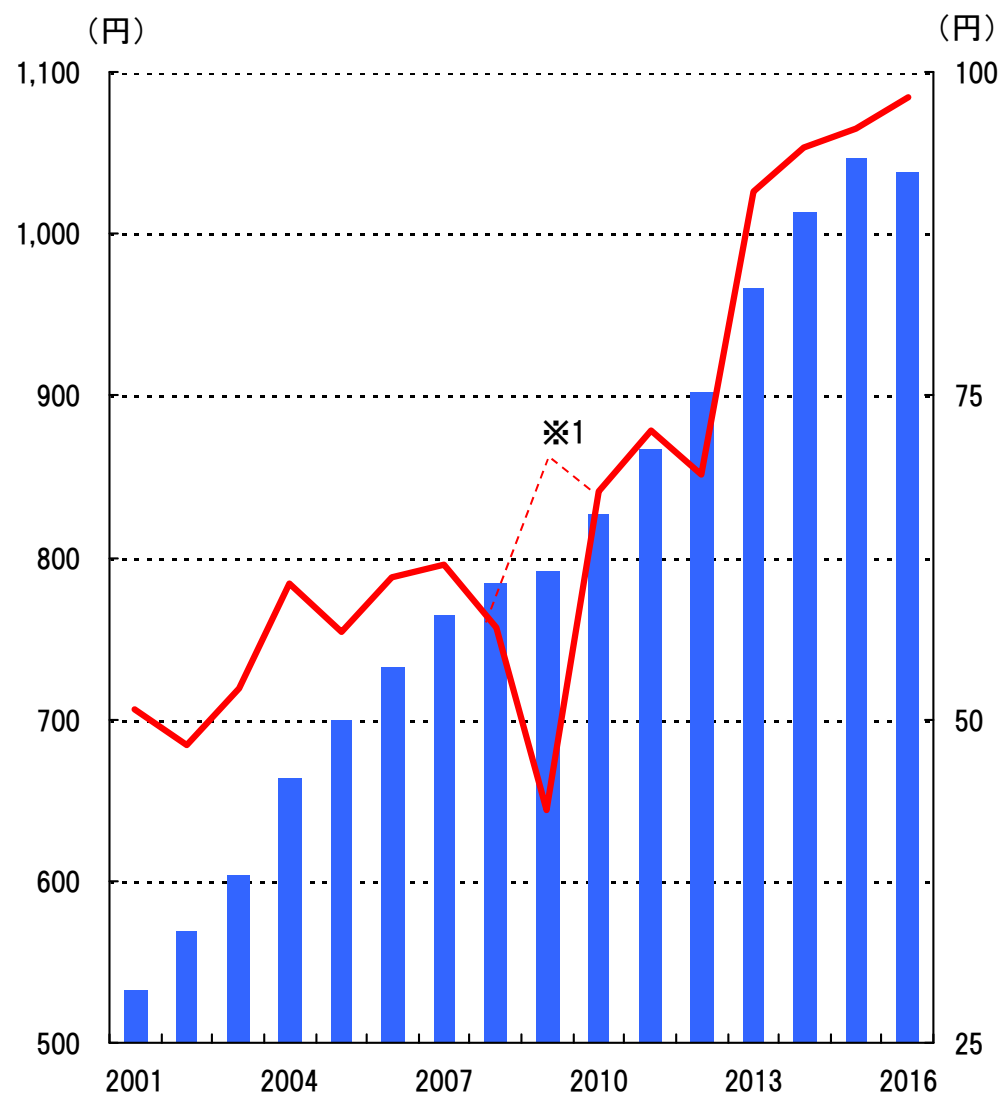
自己株式の取得

⇒当社株式が割安と思われる時期に機動的に実施

株式価値の推移(連結)



	一株当り 純資産 BPS (円)	一株当り 当期純利益 EPS (円)	一株当り 配当金 DPS (円)
2001年8月期	532.5	50.8	12.5
2002年8月期	568.3	48.0	12.5
2003年8月期	604.0	52.4	15.0
2004年8月期	663.0	60.5	30.0
2005年8月期	700.0	56.7	30.0
2006年8月期	732.4	61.0	30.0
2007年8月期	764.3	61.9	30.0
2008年8月期	783.9	57.1	30.0
2009年8月期	791.0	42.9	30.0
2010年8月期	827.0	67.6	32.5
2011年8月期	866.1	72.3	35.0
2012年8月期	902.3	68.9	35.0
2013年8月期	966.2	90.8	45.0
2014年8月期	1,012.7	94.1	50.0
2015年8月期	1,046.6	95.6	* 100.0
2016年8月期	1,037.8	98.1	50.0



※ 配当金は単体

※1 2009年8月期 厚生年金基金脱退に伴う脱退特別掛金1,044百万円が発生
仮に発生がなかった場合は点線

* 2015年一株当り配当金100円(普通配:50円、記念配:50円)

■ 一株当り純資産(BPS)(左軸)
■ 一株当り当期純利益(EPS)(右軸)

株主還元実績



	配当総額 (百万円)	自社株買 (百万円)	配当性向 (単体, %)	総還元性向 (単体, %)
2001年8月期	475	0	27.4	27.4
2002年8月期	475	0	29.3	29.3
2003年8月期	530	1,697	29.7	124.6
2004年8月期	744	0	36.5	36.5
2005年8月期	1,117	0	56.9	56.9
2006年8月期	1,117	0	53.4	53.4
2007年8月期	1,117	0	53.1	53.1
2008年8月期	1,083	1,077	56.6	111.2
2009年8月期	1,040	1,220	57.3	122.2
2010年8月期	1,127	0	51.4	51.4
2011年8月期	1,205	226	52.0	61.7
2012年8月期	1,205	0	55.1	55.1
2013年8月期	1,541	229	51.3	58.7
2014年8月期	1,712	0	54.4	54.4
2015年8月期	* 3,324	1,500	107.5	153.8
2016年8月期	1,662	0	52.5	52.5

*2015年一株当り配当金100円(普通配:50円、記念配:50円)

経営理念

ナガイレーベンは「いのちの力になりたい」を理念に掲げ、「人の和」を社是としています。人と、企業利益(企業成長)と、社会貢献、それぞれがバランス良く熟成してこそ、社会に求められる企業集団になると考えています。さらに、“ナガイズム(ナガイ主義)”ともいえる、行動指針があります。もっと人に、深く、広く、健康一般へ、人と健康のあらゆる分野へ、活動の場を広げていきます。

